

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1 はじめに

長洲町教育委員会では、長洲町の児童生徒の学力や学習状況がどのような状態にあるのかを把握し、指導の工夫改善等に生かすために、毎年実施される「全国学力・学習状況調査」を活用しています。

今回の調査結果を、全国や県及びこれまでの調査結果と比較することにより、教育施策の成果と課題の検証・改善や学校における教育指導の改善等に役立てていきます。また、町民の皆様と共有することで、長洲町の児童生徒の「確かな学力」の育成に共に取り組んでいきたいと思ひます。

なお、今回の調査で得られた結果は、児童生徒の学力の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、各教科での指導法等の工夫改善を図り、教育行政の施策に役立てていきます。

2 調査の概要

○実施日 令和6年4月18日（木）

○調査対象 小学校6年生、中学校3年生

（1）教科に関する調査（国語、算数・数学）

・知識・活用を一体的に問う問題

（2）質問紙調査（児童・生徒質問紙調査）

・学習意欲、学習方法、学習習慣、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 調査結果の概況

（1）教科に関する調査

①小学校6年生（国語・算数）

	国 語	算 数
全国平均正答率（公立）	67.7	63.4
町平均正答率	65.0	58.0

②中学校3年生（国語・数学）

	国 語	数 学
全国平均正答率（公立）	58.1	52.5
町平均正答率	59.0	48.0

（2）質問紙調査の結果より

○小学校（児童質問紙調査より）

質問項目で「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」が、全国平均を上回った又は下回った主な項目

【上回った項目】

- ◎将来の夢や目標を持っていますか。
- ◎学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ◎友達関係に満足していますか。
- ◎先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。

【下回った項目】

- ▲自分には、よいところがあると思いますか。
- ▲人が困っているときは、進んで助けていますか。
- ▲新聞を読んでいますか。

☐ 中学校（生徒質問紙調査より）

質問項目で「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」が、全国平均を上回った又は下回った主な項目

【上回った項目】

- ◎将来の夢や目標を持っていますか。
- ◎学校に行くのは楽しいと思いますか。
- ◎友達関係に満足していますか。
- ◎先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

【下回った項目】

- ▲自分には、よいところがあると思いますか。
- ▲困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。
- ▲新聞を読んでいますか。

4 成果と課題

☐ 小学校

教科に関する調査『国語』の結果では、学習指導要領の内容「知識及び技能」については、全国平均正答率とほぼ同じであったが、一部「我が国の言語文化に関する事項」において、全国平均正答率をやや下回った。

一方、「思考力、判断力、表現力等」において、「話すこと・聞くこと」については、全国平均正答率を大きく下回っており、日々の授業において、目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決めたり、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できる力をつけていく必要がある。

『算数』の結果では、学習指導要領の領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」すべてで、全国平均正答率を下回っており、中でも「数と計算」「変化と関係」が大きく下回る結果となった。

細かい部分を見てみると、数量の関係を捉えて式に表すこと、除数が小数である場合の除法、速さ・道のり・時間の関係を言葉や数を用いて記述できるかどうかに関題が見られた。

今後は、日々の授業の中で、各領域の基礎・基本を確実に押さえていくとともに、子供たちが与えられた条件等をもとに、自分の言葉でまとめたり表現したりする力を培っていく必要がある。

○中学校

教科に関する調査『国語』の結果では、学習指導要領の内容「知識及び技能」のすべての内容で全国平均正答率を上回った。また、「思考力・判断力・表現力等」では、全国平均正答率とほぼ同じ結果であったが、「読むこと」においては、全国平均正答率をやや下回る結果となった。

一方、「選択式」の問題では全国平均正答率を大きく上回る結果となったが、「記述式」の問題では、全国平均正答率をやや下回る結果となった。今後は、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめたりする力をつけていく必要がある。

『数学』の結果では、学習指導要領の領域「数と式」「図形」「関数」「データの活用」のすべてにおいて、全国平均正答率を下回り、特に「数と式」「図形」については、全国平均正答率を大きく下回る結果となった。

問題形式では、全体的に「記述式」問題での誤答や無答が多く見られることから、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明したり、筋道を立てて考え、証明することができる力を身に付けていく必要がある。

5 今後の対策

今回の調査結果から、教科に関する調査では、小学校において「国語」「算数」とともに、全国平均正答率を下回る結果であった。特に「算数」では全国平均正答率を5.4ポイント下回る結果となった。一方、中学校においては、「国語」では全国平均正答率をやや上回る結果であったが、「数学」では全国平均正答率を4.5ポイント下回る結果となった。

町教育委員会では、今回の「教科に関する調査」及び「児童・生徒質問紙調査」の結果を真摯に受け止め、各学校においても結果を詳細に分析し、成果と課題を明確にしながら、具体的な対策を図っていく。

そこで、「誰一人取り残さない学びの保障」の実現に向け、町に配置されている指導教諭（スーパーティーチャー）の授業公開や授業づくりの研修会を実施する。

また、町学力向上対策研修会等を開催し、町全体で教員一人一人の授業改善に取り組み、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図るために、小中連携して取り組んでいるところである。

家庭学習の充実に向けては、児童生徒の実態を学校と共有し、児童生徒が自主的に家庭学習に取り組み、充実感や達成感を味わうことができるように、自学ノートの丁寧な指導や効果的な学習プリント等を活用していく。

そして、学習指導はもちろんのこと、まずは児童生徒が「学校に行くのが楽しい」「人との関わりが楽しい」と思える学校づくりを基盤とし、引き続き児童生徒一人一人に寄り添い、笑顔で前向きに学校生活を送ることができるよう教育委員会としても各学校とさらに連携を深めていきたい。